

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900417		
法人名	株式会社南海		
事業所名	グループホームいこいの家		
所在地	徳島県三好郡東みよし町中庄801-3		
自己評価作成日	平成30年12月5日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境と雰囲気の中で入居者様が明るく笑顔で生活できることを目標に、一日一日を大切に  
して入居者様の居心地の良さを第一に考えて支援しています。地域とのつながりでは小学校主催の七夕祭りや地域での様々な行事に参加させていただき交流ができています。また、今できることを継続  
できるよう、出来る家事を行っていただいたり、レクレーションの中で脳トレや運動を取り入れています。  
ご希望の方にはくもん学習療法を提供しています。食事には多くの野菜を取り入れ栄養面も考え調理  
しており、入居者様は、「食事おいしい」と喜ばれています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成31年1月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域とのつきあいを大切に、毎日の散歩の際に地域住民との交流を図っている。車い  
す対応の車で利用者の希望する場所に出かけ、地域社会とつながりながら暮らせるよう支援してい  
る。職員は、身体拘束や虐待の防止等に関する研修会、各種講演会等に参加し、受講報告書を職員  
間で回覧して共有し、サービスの質の向上につなげている。食事は、利用者一人ひとりの好みを取り  
入れ、利用者一人ひとりの能力を活かしつつ、職員とともに準備や後片づけを行ったり、利用者  
と職員で、同じテーブルを囲んだりして、利用者の心身の力の維持、向上と生活の自信にもつながっている。  
事業所内は掃除が行き届き、また、利用者が滑らないよう工夫も行っている。管理者は、職員の意見  
を運営に取り入れ、経営者も職員が向上心を持って働けるよう職場環境を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			てまり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所やユニットに掲示し、朝の申し送り時に唱和している。介護支援方法に迷ったときには理念に立ち返り方針を決定している。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、事業所内に掲示している。また、日頃のサービスを振り返り、職員間で理念がケアに反映されているかどうか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	経営者は自治会に加入し、近隣住民と交流する中でホーム運営に理解をいただいている。	事業所は、日頃から近隣の散歩や買い物に出かけて地域住民と交流している。事業所の庭でカフェをオープンして、近隣住民と利用者、職員の交流の場となっている。また、防災訓練やお祭りなど、地域の行事に参加して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方に認知症の理解を話したり、近所の方から家族介護の相談を受ける時に応じている。また、見学者にはグループホームだけでなく他の介護方法を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真などでサービスの実際はわかりやすく報告するよう心掛けている。また、いただいたご意見は会議録や話し合いで職員に周知し、サービス向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、議案提出や継続課題について報告し、出席者から意見や要望を聞き、話し合いを行っている。会議の内容は職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいている。また、事故報告等を速やかに行いご指導いただいたり、行政主催の講演会などに積極的に参加している。	職員は、町の担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝え、担当者からはアドバイスをもらうなど、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみに行う。身体拘束の勉強会を毎年行い、職員全員が拘束の弊害を理解できるよう努めている。抑制に用いる物品はホームに配置していない。	事業所は、権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施し、職員の認識の共有化を図っている。職員による見守りを徹底し、利用者のその日の気分や状態を察することで、玄関に鍵を掛けず、利用者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会は毎年している。「虐待は絶対にあってはならないこと」を周知徹底している。言葉の虐待も許されないことと言葉がけにも注意を払うように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			てまり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は日常生活自立支援事業を1名の方が利用していた。現在、成年後見人制度を1名の入居者様が利用している。入居時に対象となる方がいる場合は今後も関係機関に相談したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時には十分な時間を作り説明している。介護報酬改定の際にもわかりやすく、介護度別にお一人ずつ料金の改定をお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には、管理者や職員から入居者様の状況を伝えるとともに、ご要望ご意見をお聞きするように心がけている。	担当職員は利用者や家族から出された意見や要望を日誌に記録し、共有している。意見や要望は、職員間で話しあい、運営面への反映の経過や結果も記録し、利用者と家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で、職員に運営の意見を聞く機会を設けている。また、日常的にも要望を聞くと、実現につながるよう努力している。	管理者は、職員が利用者との日頃の関わりのなかから得た気づきやアイデアを大切にしている。代表者も現場に出て、職員の悩み等を把握し、職員の働く意欲の向上に向けて環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入して、資格や研修、役職や勤務年数を給与に反映している。シフト表に関しては、事前に希望を聞き取り入れている。また、勤務形態や職場環境においてもなるべく職員の希望に沿えるよう検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実習センターのキャリア研修に参加し、ホーム内で伝達講習をしている。また、研修は希望する講義に参加し、個人の学びたい分野が習得できるように支援している。パート職員希望者も交通費を支給し、勤務として研修参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、他施設の状況を知る機会がある。また、運営推進会議メンバーに近隣のグループホーム職員がおり、互いの会議に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			てまり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を決定する前に、必ずご本人とお会いし話す機会を作っている。利用者様の要望を深く知ることで、入居直後の不安の軽減に役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の安心、安全を踏まえた上でご家族が困っている事、不安な事などが解決でき今後の要望などにも耳を傾け、ご家族にも安心していただける支援を行うことで、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討されている段階で、ホームの見学および相談の機会を設け、疑問や不安の解決に努めるとともに、その時点で入居が最善か検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であることを職員全員が共有している。利用者様優先の生活が送れるよう職員のペースにならないように注意し、同じ食事を同じテーブルで一緒に取りながら会話を楽しみ良い関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族様宛に暮らしぶりや心身の状況を手紙で送り報告を行っている。入居者様を共に支えていくために協力関係を築くように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医にかかるようにしている。そこでなじみの医療従事者だけではなく、待合で知人と会うこともよくある。外出ではなじみの場所に行き、会話が弾むことがある。	事業所では、利用者が馴染みの理・美容院に行ったり、実家や墓参りに行ったりすることを支援している。家族の協力を得て、馴染みの人や場との関係を継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が交流する時間を大切にしている。時には菓子等のやり取りもありますが、特別な事情がない限り自由に過ごして頂く。外出の時には、気が合う方が一緒に出かけられるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			てまり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅や施設に住み替える場合は、情報提供書を作成し関係各所に連絡して、スムーズに生活が継続できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や得意だったことを把握すると共に、日々に会話や様子から気づいたことがあれば職員間で共有し話し合い、一人一人の思いや以降に沿えるよう取り組んでいる。	職員は、利用者との日頃の関わりのなかで言葉や表情の変化から、利用者一人ひとりの思いや意向を推測し、本人本位に検討している。意思の表出が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得て、職員間で話しあっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族から伺い、入居後も会話の中で詳しく知るように努めている。ホームに慣れて職員との関係が築けた頃の方が深く把握できることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から一日の過ごし方や、心身の状態、有する能力の変化に注意しながら、一人一人の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月月末に担当の職員がモニタリングを行い、介護記録に記載を残す。特にケアプラン変更が必要な場合はチームで相談する機会を持つ。	事業所では、利用者の意向や担当職員のモニタリングを反映した介護計画を作成している。設定期間での見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じて、家族や職員、関係者で話しあい、随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人の介護記録に記載している。介護記録を基に入居者様個々の情報を共有して、ケアに実践だけでなく、ケアプランの見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への受診は看護師が同行している。 急な外出や、自宅への送迎などにも、可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			てまり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの病院へデイケアに行かれている入居者様が1名いらっしゃる。 また、地域の行事などの情報をいただいて参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関があるが、利用者様のかかりつけ医を優先し受診している。 入居前の病状がよくわかり、その方の意向も大切にしてください。	事業所では、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診には、看護師が家族とともに付き添い、普段の利用者の様子や心身状況の変化について、医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調や表情の変化を見逃さないように、日頃からよく関り、早期発見に努めている。異変を感じたときにはすぐに看護師に報告している。看護師不在時においても待機看護師に連絡し、受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の情報交換を行い、家族の不安にも応えられるよう、医療機関との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族様とよく話し合い、今後の方針を決定している。入居時点で要望を聞くこともあるが、大体の家族様が先のことなのでその時になってみないと…とおっしゃる方が多いが、備えて特養の待機を要望する方もおられる。	事業所では、入居時の段階で重度化した場合に事業所のできる支援について、利用者や家族に説明している。利用者の心身状況の変化に応じて、家族や関係者の意見を確認し、協力医療機関と連携し、方針を共有しつつ、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、対応マニュアルを整備している。マニュアルに沿った、冷静な判断のもと、適切な行動がとれるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、全職員が避難の方法を把握するよう努めている。飲料水などの防災用品も定期的に補充している。また、地域の防災訓練に参加させてもらっている。	年2回、消防署の協力や地域住民の参加を得て、避難訓練を行っている。地域の防災訓練には、職員が参加し、協力体制を構築している。事業所は、備蓄品を準備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			てまり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライドを傷つけないように声掛けに配慮している。人生の先輩としての対応を心がけている。	職員は、利用者一人ひとりに年長者としての敬意を払って接している。トイレ誘導時には、利用者の自尊心を傷つけないようにさりげなく言葉かけを行うなど、配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出先や行く美容室、飲み物、様々な場面で自己決定できる機会を作っている。認知症が進行した方には、日常の些細なことでも2択3択にして、戸惑うことなく選べるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	玄関に施錠せず、庭に自由に出ることが出来るが、歩行状態では見守りが必要な場合がある。散歩に時間にあらずとも職員は行動を制止せず、極力利用者様の要望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは出来る限りご本人に任せている。化粧したり、美容室ではご自分の好みを伝えている。認知症が進んだ方は、元来のその方の好みに合わせて整容の介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその方の希望のメニューを提供している。職員も同じテーブルで同じ食事をとり、入居者様の好みなどを聞きながら食事をしている。食前には嚥下体操を行って食事を安全に楽しめるように工夫している。	事業所では、利用者と職員が協力し、利用者一人ひとりの力を活かしながら、調理をしている。利用者からの「野菜を多く」との要望や好みなどを反映して看護師が献立を作成している。職員は、利用者と同じテーブルを囲み、楽しい雰囲気の中で同じ食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録表に食事量や水分量の記録をしている。疾患、病状に応じて医師と相談して食事量や内容、形態を決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや介助を行っている。義歯消毒は週3回実施。時間がかかってもできるだけ自力でしていただくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			てまり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄が自立されている方と、誘導見守りが必要な方が半々おられる。夜間はポータブルトイレを使用されている方も4名ほどおられる。夜間はパッドを使用されている方も日中はパッドをはずしている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、身体機能に応じて、トイレでの排泄を支援している。日中は、100歳を超える利用者も含めた全員がトイレで排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、野菜や果物を多く利用し、食物繊維を取り入れるようにしている。ヨーグルト、牛乳を提供し便秘予防に努めている。また、適度な運動や水分摂取を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は水曜日を除く毎日、週2~3回の入浴ができるようにしているが身体の状態によって、毎日入浴する方もいる。入浴を好まない方には、声かけの工夫や時間を置くなど職員間で連携を取ってお誘いしている。	事業所では、利用者のその日の希望に応じて入浴を支援している。入浴を拒む利用者については、無理強いすることなく、利用者一人ひとりの心情を察しながら、くつろいだ気分で入浴することができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく休めるよう環境を整え、就寝前までに室温調整したり、湯たんぽを準備している。夜間の水分補給で、ポットにお茶の準備をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はファイルを作成し、職員がいつでも確認できるようにしています。服薬は氏名と日付の確認を声を出して行い、服用後の薬袋を1日残しておき、万一の誤薬に確認ができる状態にしている。必要時オブラート使用して介助する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を見極め、家事(洗濯物たたみ、野菜の下処理、テーブル拭き、新聞折り)などを役割とし、活気をもって生活ができるように支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、午前中はホームの近辺を散歩に出かけることを日課にしている。毎週水曜日には交替で車2台に乗り外出をしている。その他季節ごとの花々の見物や地域の文化祭、芸能大会、お祭りなどに行くことにより地域の方と交流するよい機会になっている。	事業所では、毎日散歩に出かけており、利用者の地域交流や気分転換、五感刺激へとつながっている。また、事業所から車で買い物に出かけるなど、利用者の希望に応じた外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			てまり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、個人で現金を所持されている方は少ない。ホームで管理している方が数名おられ、買い物に出かけたときは自分から支払いができるように事前に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている入居者様も数名おられ、ご家族や知人にご自分で電話をされている方もいる。要望があったときには職員がご家族に電話をかけたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	表示やのれんの使用により場所の区別をしている。夏には熱中症指数モニターを購入して、快適な空間で過ごせるような工夫をしている。	事業所内は清掃が行き届き、清潔を保っている。居間と食堂は、独立したつくりになっており、食事に集中できるよう工夫している。居間の畳敷きのコーナーには、掘りごたつがあり、ゆったりと過ごすことができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂が別になっており、居間にはソファを置きくつろげるスペースがある。また、冬には和室に掘りごたつを設置して、ゆったりとした空間でくつろげる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご本人やご家族に、馴染みの家具や、思い出の品などをご持参していただくようお願いしている。テレビやタンス椅子などで個性的な居室で過ごされている。	居室には、利用者の馴染みの家具等を持ち込んでもらっている。来訪した家族のために椅子や机を設置したり、仏壇を設置して、毎朝職員と一緒にお茶等をお供えしたりする利用者もいる。利用者一人ひとりの希望にそった居心地の良い居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの能力を把握し、居室やトイレ等の場所の表示やタンスのを引き出しにも中身を表示し、わかりやすいようにしている。洗濯物を片付けられる方はご自身でしていただき、出来ない方の洗濯物は職員と一緒にしている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			赤とんぼ 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所やユニットに掲示し、朝の申し送り時に唱和している。介護支援方法に迷ったときには理念に立ち返り方針を決定している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	経営者は自治会に加入し、近隣住民と交流する中でホーム運営に理解をいただいている。		
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方に認知症の理解を話したり、近所の方から家族介護の相談を受ける時に応じている。また、見学者にはグループホームだけでなく他の介護方法を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真などでサービスの実際はわかりやすく報告するよう心掛けている。また、いただいたご意見は会議録や話し合いで職員に周知し、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいている。また、事故報告等を速やかに行いご指導いただいたり、行政主催の講演会などに積極的に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみに行う。身体拘束の勉強会を毎年行い、職員全員が拘束の弊害を理解できるよう努めている。抑制に用いる物品はホームに配置していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会は毎年している。「虐待は絶対にあってはならないこと」を周知徹底している。言葉の虐待も許されないことと言葉がけにも注意を払うように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			赤とんぼ 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は日常生活自立支援事業を1名の方が利用していた。現在、成年後見人制度を1名の入居者様が利用している。入居時に対象となる方がいる場合は今後も関係機関に相談したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時には十分な時間を作り説明している。介護報酬改定の際にもわかりやすく、介護度別にお一人ずつ料金の改定をお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には、管理者や職員から入居者様の状況を伝えるとともに、ご要望ご意見をお聞きするように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で、職員に運営の意見を聞く機会を設けている。また、日常的にも要望を聞くと、実現につながるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入して、資格や研修、役職や勤務年数を給与に反映している。シフト表に関しては、事前に希望を聞き取り入れている。また、勤務形態や職場環境においてもなるべく職員の希望に沿えるよう検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実習センターのキャリア研修に参加し、ホーム内で伝達講習をしている。また、研修は希望する講義に参加し、個人の学びたい分野が習得できるように支援している。パート職員希望者も交通費を支給し、勤務として研修参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、他施設の状況を知る機会がある。また、運営推進会議メンバーに近隣のグループホーム職員がおり、互いの会議に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			赤とんぼ 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を決定する前に、必ずご本人とお会いし話す機会を作っている。利用者様の要望を深く知ること、入居直後の不安の軽減に役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の安心、安全を踏まえた上でご家族が困っている事、不安な事などが解決でき今後の要望などにも耳を傾け、ご家族にも安心していただける支援を行うことで、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を検討されている段階で、ホームの見学および相談の機会を設け、疑問や不安の解決に努めるとともに、その時点で入居が最善か検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての敬愛の気持ちを忘れずに、また家族に代わられる者として関わられるように努めている。昔の話を伺うことで、学ぶことも多く、年末の餅つきの時には、指導を受けながら餅をまるめている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には近況を伝えている。問題が起こった時には相談をして、解決方法を提案したり、して頂いたりして、よりよい方法を導き出している。また生活に必要な物品等を依頼すると、家族が届けてくださる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医に掛かることを基本としている。知人や友人の面会時には、居室等でゆっくりと過ごして頂き、外出日には自宅付近の名所を尋ねる等している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	読み終えた新聞を回したり、洗濯物をたたんでいると手伝ったりしている。「行かんかえ」と声を掛け合ったり、トイレの場所を教えたりと互いに助け合っておられる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			赤とんぼ 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅や施設に住み替える場合は、情報提供書を作成し関係各所に連絡して、スムーズに生活が継続できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在の思いや望むことを日々の会話の中で感じ取り、その感じたことや気づいたことを職員間で伝達し合う。そして、職員の捉え方が異なる場合は十分に話し合うことで、よりよい方法を導き出す。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を伺ったり、地域の他事業所からも情報を頂く。地域包括支援センターでは、利用していたサービスについても詳しい情報を得ることができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「何ができるか・できそうか」を職員間で話し合い、生活の中で役割を持って頂いている。中にはその時間を把握して、時計を見ながら行う方もいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者がモニタリングを行う。ケアプラン更新・変更時には、要望を伺うと共に、新たに何ができるかを話し合い(ご家族にも相談)プランに組み込む。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様々な場面での「ことば」や「表情」、気づき等を記録する。それを共有することで新たな一面を発見することができ、ケアプランの見直しにも役立つ。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なじみの美容室に出掛けたり、出掛けるのが困難な方の場合、ホームに来てくださる。サンカフェやお墓参りに出掛けたりもする。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			赤とんぼ 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サンカフェには毎月参加している。行事の時にはボランティアの訪問があり、知り合いの方もいてとても楽しみにしている。また学校行事や地域の文化祭にも参加。車椅子のレンタルやスロープの設置等の協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を受診しているが、様々な理由で変更が必要となった時は、ご本人・ご家族と相談の上決めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や皮膚の状態等、気づいたことを看護師に報告して、ケアの方法を相談し実行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の情報交換を行う。必要時には病院に出向いたりして、ご家族の意向を伺いつつ、退院に向けての体制を整える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族様とよく話し合い、今後の方針を決定している。入居時点で要望を聞くこともあるが、大体の家族様が先のことなのでその時になってみないと…とおっしゃる方が多いが、備えて特養の待機を要望する方もおられる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備え、対応マニュアルを整備している。マニュアルに沿った、冷静な判断のもと、適切な行動がとれるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、全職員が避難の方法を把握するよう努めている。飲料水などの防災用品も定期的に補充している。また、地域の防災訓練に参加させてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			赤とんぼ 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ目線で丁寧な言葉使いを心掛け、方言も交えながら一人ひとりに声を掛ける。入浴やトイレの声掛け時には、耳元で話し掛ける等プライバシーの確保に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「決定」ではなく「伺い」の声掛けを行い意向を確認したり、相談しながら一緒に行う。判断が困難な時は、二者択一にしたり、生活歴やその時の表情・態度等を参考にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望する時間に入浴を実施したり、朝食時間を遅らしたりしている。就寝はほぼ好きな時間で、テレビを見ながらそれまでの時間を過ごされる方もいる。日中も居室で過ごす方、居間で過ごす方各々である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容室で、お店の方との会話を楽しんだり、ホームでの散髪でも好きな髪型を伝えている。洗顔時個々にブラシやクリームを準備、外出時には自ら化粧をして出掛ける方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や盛り付けから一緒に行い、食事も同じテーブルで行う。食後の片づけも一緒に行い、感謝の言葉を掛けている。ミキサー食でも軟らかい物はそのまま提供して、おいしく摂取できる工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に摂取量を記入し把握。水分不足の方にはご家族・看護師と相談して好みのジュース等を提供。また食事時間以外でも、空腹の訴えがあれば摂取量等を確認しつつ、軽食を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、実施している。自力で行った後、不十分なところをブラッシングする等の介助を行っている。就寝時は義歯入れに預かり管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	赤とんぼ	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ介助を実施し、尿取りパットの交換を行うが、失禁がなくなれば布パンツに戻している。夜間はおむつ使用の方がいるも、ポータブル介助やトイレ介助・尿器介助も行っている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、野菜や果物を多く利用し、食物繊維を取り入れるようにしている。ヨーグルト、牛乳を提供し便秘予防に努めている。また、適度な運動や水分摂取を勧めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の入浴者をあらかじめ決めていたが、体調や要望等で変更する時がある。拒否をしても時間を開けて再度勧めたりもする。羞恥心に配慮して脱衣場での待機・見守りで入浴する方もいる(家族と相談の上)。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居間だけでなく「横になりたい」と居室で休む方がいる。夜間入床してすぐに眠る方もいれば、習慣でしばらくテレビを見る方もいる。また眠れない方にはお茶等をだして一息してもらう。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化に気付いた場合は、看護師に連絡し、指示(服薬・受診等)をもらう。その時はきちんと記録に残し、今後に活かす。服薬時は、名前・日付を確認して、飲み込みまで確認をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	献立記入やゴミ捨て・調理等その方に合った役割を依頼。できそうな事の依頼で、新たな一面を発見する時もある。また食事間や就寝前等にお好きな飲み物やお菓子を楽しんでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の芸能大会に招待頂いたり、車椅子でも参加できるようスロープ設置等の支援を頂く。外出は地域の名所に限らず、縁のある場所やお墓参りにも出掛ける。近辺の散歩は近所の方にホームの様子を知って頂く良い機会である。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			赤とんぼ 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「所持していないと安心できない」と言う方や「少しのおこづかいを持たせたい」との要望がある時は、リスク等を説明してご理解頂く。中には買い物を依頼して、自分の財布から支払をする方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自力で掛けることは困難で、要望時や職員の判断で電話を掛け、取り次いでいる。貼り絵をしたものや年賀状を送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは中から施錠が可能である。台所と居間は並びで、調理時の音やにおいを感じ「まだかえな」と様子を見に来る方もいる。ソファや和室、時には食堂の落ち着いた場所で過ごす時もある。居間には季節を感じる花や飾りがある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファと和室の掘りごたつ、食堂等好きな場所を選択。落ち着かない方を食堂や事務所にお誘いする等して、短時間でも一人になれる時間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた家具やなじみの物を持参して頂き、家族との写真も飾り、心地よい雰囲気作りをしている。中にはお仏壇を持ち込んでいる方もいて、毎日のお供え(お茶)の支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ポータブルトイレやシルバーカーの利用、状態に合わせた家具の配置により、室内を安全に移動することができる。間違いやすい物には、名前を記入したり、場所を示す表示をしている。		